



第3回 浦添市内小中学校教育相談保護者交流会 てだこきずなの会 通信



2月21日(木)、浦添市立教育研究所にて「第3回浦添市内小中学校教育相談保護者交流会 てだこきずなの会」が開催されました。皆様のご協力のお陰で、大変有意義な保護者交流会を行うことができました。会の様子をご紹介します。

1 不登校経験者の体験談

お子さんの不登校に悩まれた経験のある保護者の方と、ご自身が不登校を経験し現在社会人となっている方の2名をお招きし、体験談講話をして頂きました。当時の心境やご家族での取り組みなど、貴重な「生の声」を聴かせてくださいました。

体験談講話より (一部抜粋)

- ①高校生になったいまも、行き渋りは少しあります。担任の先生から「みんな気にかけているよ」と娘に言ったその言葉。親以外の第三者の声掛けで、スッと行けるようになったこともありました。中学生の時に通っていた適応教室や教育相談の中でのカウンセリング、そのような第三者との触れ合いが、本人にとって良い効果があると実感しました。
- ②当時の担任の先生に「学校において」ではなく「君のペースで」と言ってもらえたのは救いでした。学校へ行くことは当たり前なのかもしれないが、十人十色、みんなと全く同じというわけにはいかない。不登校の期間や経験もある意味財産で、マイナスではなくプラス、充電期間だったと思っています。今現在つらい思いをされている本人・保護者はつらいかもしれませんが、つらい時期を人より先に通っただけ。大人になってからのつらい出来事に対する「免疫」がついたと考えられるようになっていきます。



2 金城孝次先生によるスーパーヴァイズ

講話後は、浦添市のスーパーヴァイザー金城孝次先生より、以下のようなスーパーヴァイズを頂きました。

人は関係の中で傷つくが、関係の中でしか癒され立ちあがることができない、それが人間。
不登校の経験の中で、「旅立ち」をして取り戻し体験をする必要があったのでしょう。
子どもにとって不登校は必然性を伴ったものなのかもしれません。寄り添って支援したいものですね。

参加者の声 (アンケートより一部抜粋)

- 子どもを信じ寄り添う、それでいいのだと思いました。
- 子どもに「一人じゃない、仲間がたくさんいる」と伝えたいです。
- 子どもに色々な人と接してあげさせたいと思いました。
- 悩んでいる保護者は自分だけじゃないと思い、少し気持ちが軽くなりました。
- 不登校経験者のその後の話が聞けて良かったです。率直な意見が聞け、希望が持てました。
- 不登校経験は無駄にならないと聞き、ほっとしました。子どもにも伝えたいです。



第3回「てだこきずなの会」は、多くの保護者・学校関係者のご参加があり、貴重な体験談をお聴きする中で、それぞれが、「支援者」として子どもとどう向き合っていくか、一緒に考えることができる時間となりました。

学校関係職員の皆様におかれましては、ご多忙の中、保護者への呼びかけや参加人数の集約等にご協力いただき、心より感謝申し上げます。今後とも互いに連携をとりあい、不登校に悩む児童生徒とその保護者への支援に取り組んでいきたいと考えております。何卒よろしくお願い致します。

次年度の第1回てだこきずなの会は6月に開催する予定です。

4月中旬頃、各学校へご案内いたしますので
よろしくご願ひいたします。

【問い合わせ先】

浦添市立教育研究所適応指導教室「いまあじ」
TEL/FAX : 098-874-5188 (直通)
E-mail : uraken9@urasoe.ed.jp
てだこきずなの会 担当：清水